埋文コラム「発掘から見えてきた縄文時代の縄」

「縄文」の名称の由来

縄目の文様が施された土器は「縄文土器」と呼ばれ、この土器が主に使用された時代を一般的に「縄文時代」と呼称しています。この「縄文」という名称は、1877（明治10）年から行われた日本最初の学術的発掘調査とされる大森貝塚（東京都）の報告で、E・S・モースが縄目の文様を持つ土器を「cord marked pottery」とし、それが「縄紋土器」と訳されたことに由来します。今回は縄文時代の「縄」に注目してみたいと思います。

遺跡から出土した「縄」

遺跡から縄そのものが見つかることは稀で、新潟県では新発田市の青田遺跡（約2,500年前）から出土しています（図１）。縄文時代の「縄」（撚紐）にどのような種類の撚り方があったのかは、土器に残された縄目の文様から知ることができます。

縄文時代の縄目文様

土器に施された縄目の文様がどのようなものなのか、見たことがあるでしょうか。出土した土器に施されている縄目文様から縄文原体（縄目の文様をつけるもとの縄そのもの）を復元してみます。縄文時代の縄は、草木の茎や繊維等を①～③のように撚ったと考えられています。

① 繊維の束を撚り合わせて縄を作ります。

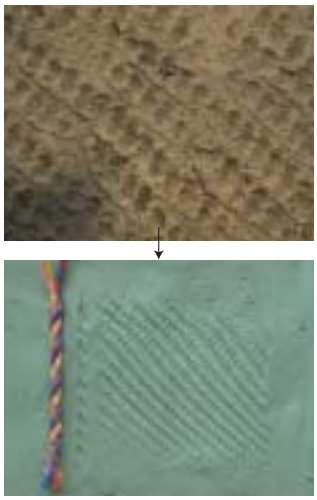
② ２本の縄を撚り合わせ（１本の縄を半分にし、撚り合わせてもよい）。土器の器面に回転させると線状の圧痕が斜めに走ります（条）。

③ ②をさらに撚り合わせ、回転させると米粒状の圧痕（節）が斜めに連続する文様ができます（図２）。

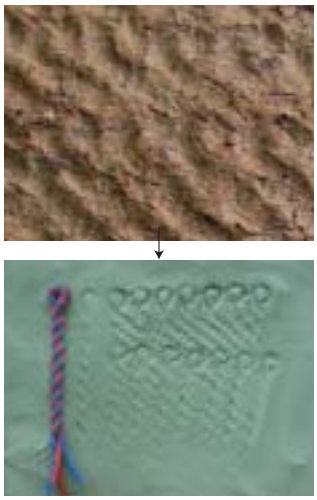
1 青田遺跡出土の縄

以上の縄を基本とし、縄文時代に使用された縄文原体をほんの一部ですが復元してみました。（図２～４）また、土器の表面に縦、横、斜め方向に回転や押圧することで、また違った文様効果を生み出します。

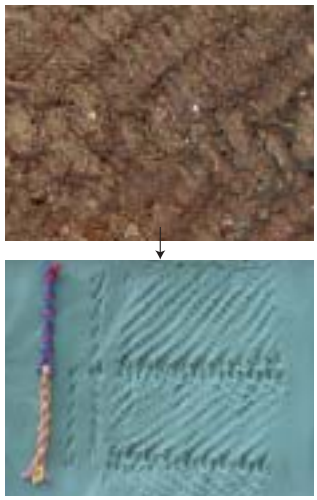
縄文土器というと、どんなものをイメージするでしょうか。新潟県を代表する火焔型土器のような沈線や隆帯文様で描く装飾性の豊かなものが注目されますが、縄文土器の縄文にも注目してみてください。きっと縄文人の器用さやこだわりを感じることができると思います。（斉藤　準）



2 単節縄文



3 環付き縄文



4 結束縄文

＜参考文献＞
1979 山内清男 『日本先史土器の縄文』 先史考古学会／2005 可児通宏 『縄文土器の技法』 同成社

※今回は、どのように撚っているのかわかりやすくするために色違いの紙テープを使用した。